

第37週の発生動向 (2004/9/6~2004/9/12)

- 1 感染性胃腸炎については、前週に比べ17人の増加(青森保健所管内14人 20人、弘前保健所管内9人 15人、むつ保健所管内16人 22人)となったことから、注意が必要です。
- 2 ヘルパンギーナについては、依然として、むつ保健所管内で**警報**が出ており、青森および弘前保健所管内での報告数も多いことから、引き続き注意が必要です。

第37週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱			4	0.40									4	0.10	-2
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.75	6	0.60	1	0.11			2	0.33	5	1.25	20	0.48	±0
(62) 感染性胃腸炎	20	2.50	15	1.50	2	0.22			7	1.17	22	5.50	66	1.57	17
(63) 水痘	1	0.13	3	0.30	5	0.56			8	1.33	1	0.25	18	0.43	6
(64) 手足口病	1	0.13			2	0.22			11	1.83			14	0.33	-6
(65) 伝染性紅斑	5	0.63											5	0.12	2
(66) 突発性発疹	1	0.13	8	0.80	2	0.22			3	0.50	6	1.50	20	0.48	-8
(67) 百日咳	1	0.13											1	0.02	-2
(68) 風疹															-1
(69) ヘルパンギーナ	26	3.25	29	2.90	1	0.11	7	1.40	1	0.17	31	7.75	95	2.26	-3
(70) 麻疹(成人を除く)															
(71) 流行性耳下腺炎	1	0.13	1	0.10	13	1.44	1	0.20	1	0.17			17	0.40	4
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					1	0.50							1	0.09	-2

	定点数			
	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報、■ は警報です。 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

- (14) 腸管出血性大腸菌感染症 (三類全数把握疾患) 合計2人 (16年計 22人)
弘前保健所管内 (O111: 1人), 五所川原保健所管内 (O157: 1人)
- (59) RSウイルス感染症 (五類定点把握疾患) 弘前保健所管内 6人 (16年計 38人)
- (82) マイコプラズマ肺炎 (五類定点把握疾患) 八戸保健所管内 3人 (16年計 83人)

感染症の窓

腸管出血性大腸菌

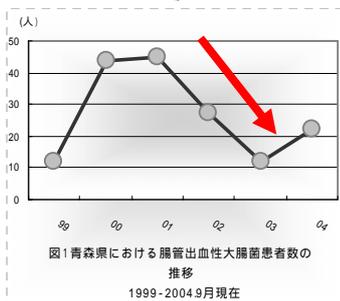


図2 O26:H-でVT1産生 3株のPFGE解析

青森県環境保健センター 微生物部

2004年に報告された22人のうち、8月に9人、9月に4人と散発の報告が増えています。2004年は9月現在で昨年の全報告数を上回っています(赤矢印部分)(図1)。本県で1月~7月に検出された10株の腸管出血性大腸菌のうち、血清型及び産生する毒素が同一の菌株は3株ありました。図2に示すようにPFGE(pulsed field gel electrophoresis:パルスフィールド)解析の結果、同一の泳動パターンを示す株はありませんでした。

感染予防 少数の菌でも発症し、2次感染も起こることから**特に手洗いは頻繁に行うことが大切です。また、肉類などは十分に加熱して食べるようにしてください。**

